

コロナ「第7波」 に備え緊急要望

新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」は全面解除されましたが、オミクロン株「BA・2」への置き換わりが急速に進み、「第7波の始まり」（3/31千葉日報）と、専門家も警鐘を鳴らしています。

「第6波」では、医療機関、高齢者・障害者施設、学校、保育所などでクラスター（感染集団）が相次ぎました。保健所は十分な機能・役割を果たせず、臨時医療施設や宿泊療養施設（ホテル）の活用も極めて不十分で、自宅で命を落とす方も少なくありませんでした。その後の新規感染は、連日3000名前後で、高止まりしたままです。

日本共産党県議団と党県委員会は4月7日、知事に対して「第6波」の教訓を引き出し、「第7波」への万全な備えを期すよう緊急要望しました。



右2人目から：加藤英雄県議、みわ由美県議、さいとう和子元衆院議員、丸山慎一前県議、白石ちよ花見川区県政対策委員長、川副邦明党県副委員長

日本共産党が主張する 感染急拡大を抑え込む基本的方針

- 3回目のワクチン早期接種と一体で無症状の感染者を発見・保護するための無料検査を抜本的に拡充する。
- 陰性が確認された人たちで日常の社会生活や経済活動を維持・継続する。

要望した主な緊急対策と県の答え

1. 徹底した検査と3回目ワクチン（希望者）の速やかな接種

- 医療機関、高齢者・障害者の施設、保育所、学校などでの定期的検査でクラスター発生を抑える
県⇒高齢者施設・職員週1回、新規入所者は検査（4月中）
障害者施設・職員週1回、施設を出入りした利用者は検査（4月中）、保育所は職員用1万1千の検査キット配布（2月までの使用1400キット）、学校は職員用検査キットを配布。（4～5日目に感染有無確認）学校の定期検査は協議したが事務量が増すため実施しない。
- 事業所への検査キットの配布（県⇒国に要望したい）
- 大手薬局チェーン店などでの無料一般検査の継続、PCR等検査用移動車両の巡回（県⇒一般検査は4/21まで延長）
- 濃厚接触の疑いのある人への速やかな行政検査
- 市町村のワクチン接種状況をふまえた集団接種会場の設置と人員確保

緊急要望書

全文はコチラ→



2. 保健所体制の強化

- 常勤保健師の追加募集と採用
県⇒各保健所の業務量をみて検討
- 臨時的な職員を含む人員確保で保健所職員の過重な負担を軽減

3. 医療提供体制の強化

- 自宅療養者を保護する十分な医療施設、宿泊施設の確保
- 確保した臨時医療施設（約280床）がフル稼働できる医療・介護職などスタッフの確保
- コロナ患者受け入れに係わらず、全ての医療機関へ支援（県⇒国に要望）

ロシアはウクライナから即時無条件撤退を
NO WAR！ 住民虐殺やめよ 核兵器つかうな



みわ由美
（松戸市）



加藤英雄
（船市）